

# 高知精神保健

発行所 高知市丸の内1丁目2-20  
 高知県子ども・福祉政策部障害保健支援課内  
 高知県精神保健福祉協会  
 電話：088(823)1111・088(823)9669(直)  
 FAX：088(823)9260  
 E-mail：kochi-mhwa@mopera.net  
 発行人 数井 裕光 編集人 諸隈 陽子

第290号

## 第64回高知県精神保健福祉大会

# 意志あるところに道は開ける ～希望は成功へ導くかけ橋～



実行委員長  
 一陽病院長  
 諸隈 陽子

この度、第64回高知県精神保健福祉大会の実行委員長を務めてさせていただきます。いつか来るこの時にはぜひ取り上げたいテーマ、お招きしたい方がいました。それは高知県立障害者スポーツセンター所長の渡邊英孝さんと、世界でご活躍されている車いすラグビー日本代表の池透暢さんです。一昨年の「芸術」、昨年の「音楽」に次いで、今大会は「スポーツ」をテーマにお2人にご講演いただくことが実現いたしました。

渡邊さんは県外のご出身ですが、ご縁があり平成14年から高知県の障害者スポーツの普及活動にご尽力いただいています。障害を受けた後にもスポーツが生きがいづくりにつながることや、高知県で経験できる活動についてご紹介いただきます。

池さんは、19歳で遭遇した交通事故で大切なご友人との突然の別れを経験し、ご自身も重傷となり、心身ともに大きな傷を負われました。生活は一変し、私たちには想像もできない苦難の中、車いすバスケットを始められました。

身体能力を生かして2012年に車いすラグビーに転向されてからは、2014年日本代表キャプテンに選出、2016年リオパラリンピック、2021年東京パ

ラリンピックで銅メダル獲得、2022年日本選手権で所属チーム「Freedom」優勝、そして、記憶に新しい2024年パリパラリンピックでついに念願の金メダルを獲得と、めざましい活躍をされています。私もテレビの前で興奮して応援したことを思い出します。

池さんが「活き方」を変えざるを得なくなってから25年間、さまざまな苦難とどのように向き合い、どのようにして乗り越えてこられたのか、池さんの心身の変わり様を直接語っていただける貴重な機会です。

身体を動かすことや仲間とのつながりは、心と体の健康を回復させ、それを維持するための一助となります。また、当事者だけでなく、当事者を応援、支援する方々にも、勇気と希望が湧きます。本日の講演が、皆さまに心身の健康と共に勇気と希望をお届けする時間となりますことを祈っています。

そして、2028年ロサンゼルスパラリンピックに向けて、地元高知の応援の輪を広げていきましょう!!



### 目次

第64回高知県精神保健福祉大会(案内) ..... 1  
 高知県自殺・依存症対策ネットワーク ..... 2  
 地域と共に精神医療保健福祉研修会 in 宿毛 ..... 3

ノウフク連載 ..... 4  
 新規会員のご紹介 ..... 5  
 第64回高知県精神保健福祉大会 ..... 6  
 令和7年度高知県精神科医等依存症対応力向上研修が始まっています ..... 6

# 令和7年度 高知県自殺・依存症対策 ネットワークを開催しました!

高知県立精神保健福祉センター 宮内 砂緒里

当センターでは、高知県自殺対策推進センター及び依存症相談拠点として、年1回「高知県自殺・依存症対策ネットワーク会議」を開催しています。本会議は、高知県内の自殺・依存症支援に携わる行政機関（保健、福祉、司法等）、警察、医療機関、民間団体、依存症自助グループや家族会等で構成されており、テーマに合わせて構成メンバーが変わることもありますが、県内の各関係者同士との連携を強化促進するために、継続実施しています。今年も、6月4日(水)、ふくし交流プラザにて、総勢76名、53機関・団体の参加者のみなさんにご参加いただきました。

「“生きる”を支えるために大切にしたいこと」をテーマに、まずは当センターと訪問看護ステーション、障害者相談支援事業所等から2つの事例の支援実践を紹介し、参加者のみなさんとグループワークを行って、課題共有や意見交換を行いました。

グループワークの意見では、「永くつながり続ける」、「気持ちに寄り添う」、「受け止める」ことの大切さを再確認したという意見がある一方、それぞれ支援機関の役割が明確であるために支援が途切れてしまう心配や、生活支援や就労支援を担当する場合に支援者側の関わりが密になるため負担感が大きいことなどが共有されました。そのため、それぞれの所属や職種の役割をよく知り、意見を交わし、チームで対応することの重要性を感じるという感想が多くありました。

この日、事例発表で作成したスライドの中にエコマップがありました。私たちはエコマップを書くとき、「本人」を中心に周りに支援機関を並べます。ある依存症回復施設のピアスタッフさんから「本人が真ん中って、本人が問題みたいな感じがするから、周りの支援機関と本人が並ぶっていう図になれ

ばいいよね」という意見がでました。チームの中に本人はもちろん入りますが、エコマップはそうっていないことに気づきました。

「本人の思い（主体性）を大切に」とよく言いますが、「寄り添う」とは、どういうことかということも話し合われました。これは、自殺や依存・アディクションの問題を抱える人たちとじっくり付き合っていくなかで理解していくのだと思いますが、支援者が「何とかしないといけない」という考えから本人の気持ちを置き去りにしてしまったり、過度な期待となってしまうと、本人を傷つけ、回復を阻害してしまうことになるのかもしれませんが、それによりまた支援者も傷ついてしまいます。当事者や家族、支援者が顔のみえる関係性の中で悩み、話し合い、本人の回復を信じて、市町村や県、その他医療や福祉関係等が機能的に連携できるよう本会議を継続していくことが大切だと思いました。

それぞれの地域でこういったネットワークがあたりまえにできていることを目指して、私たちは様々な地域で取組みを進めていけたらと考えています。

精神保健福祉センターでは、下記の要項でアディクション・フォーラム高知2025を開催いたします。是非ご参加ください。



〈お申込み〉

高知県立精神保健福祉センター  
アディクション・フォーラム実行委員会事務局  
TEL:088-821-4966 WEB:  
メ切:10/16



## 「地域と共に精神医療保健福祉研修会 in 宿毛」

医療法人 祥星会 聖ヶ丘病院  
地域連携推進室 中野 奈穂

令和7年7月2日に宿毛文教センターにて研修会を開催いたしましたので報告させていただきます。

この研修会の準備に取り掛かったのは、開催1か月前。芸西病院の公文一也さんに講演をしてもらえるとの話があり、宿毛市役所の保健師さんにも声をかけて、宿毛市の後援で、会場の確保や当日の会場準備を助けて頂きました。

院内外の専門職が学べる機会になればと幡多地域の市町村、市内の医療機関や相談支援事業所等にお声をかけて、当日は44名の参加がありました。急な呼びかけにもかかわらず、当院の病棟職員や相談員の他、地域から精神科医、社協職員や保健師、事務職、相談支援専門員など様々な立場の方にご参加頂きました。

公文さんの講演は「多機能連携で自殺予防からの農福連携～誰もが暮らしやすい地域を目指して～」と題し、1時間お話ししていただいたのですが、あっという間でした。おそらく参加者全員が、心をよそに向ける隙間もないくらい夢中になって聞いた時間でした。

公文さんは、病院職員になったからこそ、さらにフットワークは軽くなり、仲間と繋がりながら、自由に地域に出て、アウトリーチ支援に取り組んでおられます。これまで農業関係者のみならず、酪農や漁業、法律関係者、商業等のたくさんの地域の力を借りて、生きづらさを抱えた人たちに向き合い、就労や支援に繋いでいます。農福連携を通して「自殺予防につなげたい」との思いで、芸西では「ここから東部地域ネットワーク会議」が立ち上がって、今も繋がりを続けています。

平成12年、公文さんが幡多福祉保健所に居た頃、幡多地域にも「幡多ネットワーク会議」が立ち上がりました。保健所、精神科医療機関、市町村、相談支

援事業所等のネットワークが広がり、それがあったからこそ芸西で「ここからネットワーク会議」が出来たとお話がありました。そういう時代もあったね～と私は嬉しい気持ちと、その後いつの間にか活動休止となった幡多ネットワーク会議を思い、その後の活動も休止となった幡多の現状に、力不足を感じています。もっともっとたくさんの支援者と出会い、公文さんのように地域のあらゆる産業や地域住民と繋がり、幡多地域で精神疾患があっても、誰かが助けてくれる、誰かと繋がってれば一緒に考えてくれる、そんな地域づくりがしたいと、ずっと思っていたのに。公文さんのお話を聞いて、こんな苦勞をしながら、地域の皆さんと笑って繋がりたいと思いました。

公文さんが大事にしている連携に必要なのは「連携は相手を思いやる助け合い」だと言われました。思いや考え方が違って、相手を非難しない、支援を押し付けない、思いを寄せて共に考え助け合うから、繋がりが広がっていきます。

地域住民の理解者が、様々な生きづらさを抱えた人たちに働く場を提供し、支援者が繋がり



ながら必要な支援を行い、当事者が働いて地域を支えていく担い手になり、その当事者が「今度は僕が困っている人を雇いたい」と独立した方もいるとお話には、嬉しくなりました。

幡多地域でも、みんなでお互いに思いやりをもって助け合って繋がって、当事者と一緒に些細な喜びでも笑顔になっていく繋がりを創っていきたいと思います。

医療法人 祥星会 聖ヶ丘病院

URL : <https://www.hijiri-hp.jp/>

☎ 0880-63-2146/FAX 0880-63-3336

✉ madoguti@hijiri-hp.jp

〒788-0051 高知県宿毛市押ノ川1196



# ノウハウ連載

須崎市 元気がでる作業所「ゆら・ら」～農園編～



今回は、須崎市で農福連携に取り組んでおられる、就労継続支援B型作業所「ゆら・ら」さん取材するため、作業場である多ノ郷地区のブルーベリー農園「いちかわファーム」にお邪魔してきました。農園の案内と説明をしてくだ

さったのは、ゆら・らの理事長市川さんです。

「いちかわファーム」は、市川理事長と旧知の仲であった市川夫妻が経営されている農園で、広大な敷地に約1,400本ものブルーベリーの果樹が大切に育てられています。

全て手作業で1つ1つ大切に収穫された果実は、ご夫妻自身の目で丁寧に選別され、生食、冷凍加工、地元のお菓子屋さんやパン屋さんへの卸、ネット販売、ふるさと納税、と、多岐にわたる出荷先へ届けられるそうです。

「ゆら・ら」が農福連携の活動に取り組み始めたのは昨年10月からで、活動に携わっているのは、所属している14名の利用者さんのうちの3名だそうです。

利用者さんは、1週間のうち3～4日、午前午後それぞれ2時間程度、農園の作業に携わっており、取材に伺った時は2名で冷凍加工用のブルーベリーの収穫作業を行っていました。取材の前日に生食用の果実を収穫しており、残った実の中から、小さすぎず、傷のない果実を1つ1つ選別し、腰につけたカゴにポンポン入れ



ていきます。約2時間の作業で、1人3～4本程度の果樹からの採取作業を完了できるそうです。

大変暑い中で、立っているだけでも汗が止まらない程の気温でしたが、利用者さんは「空調服を着ていると大丈夫ですよー」と終始穏やかに笑顔で作業されていたのが印象的でした。

市川理事長に、現在の課題についてお伺いしたところ、「作業に携わる利用者の数を増やしたい」との回答でした。作業人数を増やし、効率を上げる目的はもちろんですが、持続的な集中力と安定した判断力の必要な“果実の選別作業”ができる利用者の育成が必要、とのことで、そのためにはゆら・ら全体の利用者を増やし、1人でも多く農園作業に携わる人数を増やしたい、と語ってくださいました。

さらに、今後の展望として、ブルーベリーのみではなく、同じ農園内で栽培されているキウイ畑の管理、そして新しい取り組みとして、さつまいもの栽培から加工・販売までの作業を、活動に取り入れたいとの計画をお話してくださいました。



市川理事長のお話を伺っていると、農福連携にはまだまだ沢山の可能性があり、それは障害者雇用の側面だけでなく、これからの日本にとって重要な農業の継承への希望に繋がるのではないかと感じました。

今回は、ゆら・らさんのブルーベリー農園での活動を取材しましたが、今後、作業所での加工製造作業も開始する予定だと伺ったので、その際はそちらの活動も取材させていただこうと思います。

(文責:西山)

## 新規会員のご紹介

当協会は今年度、新たに「団体会員」を設立いたしました。「地域で共に生きる」時代に合わせ、さまざまな団体と連携・協働しながら、引き続き、協会が目的としている「精神保健の保持増進を図ることにより県民の福祉に寄与すること」を果たして参ります。協会の活動に参加及び協力して下さる団体会員に加入された団体と、協会の活動に賛同し、援助して下さる賛助会員に新たに加入された団体を、ご紹介いたします。

### 団体会員

#### ◎高知県臨床心理士会

高知県臨床心理士会は1993年に発足し、今年で33年目を迎え、会員数は数年来140名程です。当会は公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の認定を受けた臨床心理士による職能団体で、会員は医療保健、教育、福祉、司法・矯正、私設相談など多様な分野で活動しています。県民の心の健康と社会の健全な発展に寄与するため、関係機関と連携しながら研鑽を重ね、資質向上に努めています。臨床心理士は5年の更新制度を維持し、当会もその一端を担っています。近年は災害や被害者支援など心理支援の重要性が高まっています。皆さまのご協力をいただきつつ、実績を踏まえた活動を継続していきます。今後ともよろしくお願いたします。

#### 高知県臨床心理士会

〒782-8502 香美市土佐山田町宮ノ口185  
高知工科大学 共通教育教室  
FAX 0887-53-9058

#### ◎高知県精神障害者家族会連合会

家族会は、大きく分けて3つの基本的活動があります。

- ①家族同士のピアサポート、電話相談、来所相談
- ②研修会等で病気への理解を深めながら色々な情報を得ていく
- ③全国組織「みんなねっと」下で精神障害施策などへの運動を行っていく

高知県下には地域家族会があり、それぞれが独自の活動を行っています。定例会、研修会、交流会、居場所、地域との連携などです。高齢化が進み会員は

減少傾向で厳しい状況ですが、当事者と共に歩みながら一人一人の人権を大切にしていける事を目指しています。

#### 高知県精神障害者家族会連合会

〒780-0850 高知県高知市丸の内2-4-1  
高知県保健衛生総合庁舎内  
TEL 088-802-7244/FAX 088-802-7244

#### ◎高知県精神保健福祉士協会

高知県内で活動する精神保健福祉士が集まる職能団体です。精神障害のある方の社会的復権や権利擁護を目的に掲げ、制度や地域の課題に関する声を集め、すべての人が安心して暮らせる社会づくりを目指しています。精神保健福祉の理解を広める普及啓発のほか、研修や交流を通じて実践に役立つ知識・技術を磨き、会員同士のつながりを大切にしています。会員同士のネットワークを活かして医療・福祉・行政など幅広い分野と連携し、地域の中で精神保健福祉士の専門性を発揮しています。

#### 高知県精神保健福祉士協会 事務局

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号 丸ノ内ビル内  
高知県社会福祉センター3F  
TEL 080-9387-1056/FAX 088-871-5100  
✉ kochipsw@yahoo.co.jp

### 賛助会員

#### ◎(特非)高知いのちの電話協会

「高知いのちの電話協会」は、ボランティア活動による電話相談を通じて、孤独の中にあって、精神的危機に直面し自殺の悩みを抱える人をはじめ、助けと励ましを求めている一人ひとりと「電話」という手段で対話することを目的としています。

「いのちの電話」は、全国に50の電話相談センターがあり、およそ6,000人の電話相談員がボランティアとして活躍しています。高知では、1999年2月に日本で46局目のセンターとして開局し、今年で26年になります。

#### (特非) 高知いのちの電話協会

088-824-6300 (相談専用電話番号)  
毎日9時～21時 (年末年始は、10時～18時)  
毎月10日は、24時間対応  
(朝8時～翌11日の朝8時まで)  
◎一年を通じて休むことなく活動しています

第64回高知県精神保健福祉大会

# 「意志あるところに道は開ける」

## ～希望は成功へ導くかけ橋～

手話通訳  
要約筆記  
あり

**入場  
無料**

**講演  
タイトル** 「生きて、生きる」

19歳での交通事故により、全身の75%に及ぶ大火傷や、左足を切断、右足も切断、左手も思うように動かすことができなくなりました。約2年半で40回の手術や、辛く長いリハビリを乗り越え、社会復帰を目指しました。自信を失い何もできなくなってしまった自分を、何かができる自分に変わる為にステップアップしてきたことなど、苦境から25年で掴んだ、パリパラリンピック金メダルまでの軌跡のなかで学んだ事や、私が大切にしてきた事などをお話します。

**講師** 車いすラグビー日本代表  
アモーヴァ・アセットマネジ  
メント株式会社

いけ ゆきのぶ  
**池 透暢 氏**



**講話  
タイトル** 「障害のある方とスポーツ」

障害者スポーツというと、何が思い浮かぶでしょうか。近年では東京パラリンピック2020の開催やパリパラリンピック2024での日本選手団の活躍からメディアで紹介されることも多くなってきており、競技性の部分が強く印象づけられると思います。私たち障害者スポーツセンターでは障害を受けて初めてスポーツ活動を行う方の支援や、運動習慣が身に着くような事業の企画運営を行っています。運動によって障害が軽くなるという事はありませんが、社会参加機会の拡充や生きがいづくりにつながっていることなど紹介させていただきます。

**講師** 高知県立  
障害者スポーツセンター所長

わたなべ ひでたか  
**渡邊 英孝 氏**



**日時** 令和7年10月15日(水)  
13:00～16:00

**場所** 高知県立県民文化ホール(グリーン)

### プログラム

- PM 1:00 開会あいさつ  
高知県精神保健福祉協会会長 数井 裕光  
来賓あいさつ  
高知県知事 濱田 省司  
高知市長 桑名 龍吾  
高知県医師会会長 野並 誠二
- PM 1:20 表彰式
- PM 1:30 ..... 休 憩 .....
- PM 1:45 講 話  
演題 「障害のある方とスポーツ」  
講師 高知県立障害者スポーツセンター所長  
渡邊 英孝 氏
- PM 2:15 ..... 休 憩 .....
- PM 2:30 講演+デモンストレーション  
演題 「生きて、生きる」  
講師 車いすラグビー日本代表  
アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社  
池 透暢 氏
- PM 4:00 閉会あいさつ  
高知県精神保健福祉協会副会長 山崎 正雄

[主催・事務局]  
高知県精神保健福祉協会  
高知市丸ノ内1-2-20  
高知県子ども・福祉政策部障害保健支援課内  
TEL:088 (823) 9669  
E-mail:kochi-mhwa@mopera.net



当協会HP



## 令和7年度高知県精神科医等依存症対応力向上研修 が始まっています

本県の依存症医療体制の充実を目指すことを目的に高知県主催(協会が運営を受託)による「令和7年度高知県精神科医等依存症対応力向上研修」が9月29日から開講しています。

受講対象者を、県内の精神科病院、診療所、(支援・回復)施設に勤務する精神科医師及びコメディカル職員、支援者等や、依存症に関心がある県内の医師・研修医・医学生等としており、さまざまな職種の方がこの研修を受講

されています。

講師には県内外の依存症治療に取り組む医師等をお迎えし、アルコール、ギャンブル、薬物依存のほか、クレプトマニアやインターネット障害など、依存について幅広く学べる内容となっています。

